

2 市財政情報発信キャラクター「いばら騎士」と 令和4年度決算の概要を見よう 問財政課 ☎ 620・1612

一般・各特別会計のいずれも黒字に

昨年度は、原油価格や食料品等の物価高騰に対応する支援策、長期化する新型コロナウイルス感染症の対応策の継続等により、日常生活・社会活動等の支援等を推進したほか、財政の健全性の確保のもと、「豊かさ・幸せ」を実感できる「次なる茨木」の実現に向けた取組を着実に推進しました（表1参照）。

昨年度歳出決算額の内訳（市民1人あたり）

歳出決算総額を市の人口で割った金額の内訳

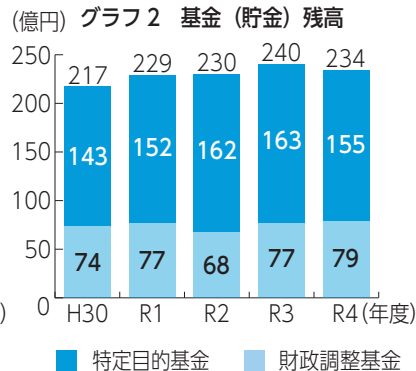
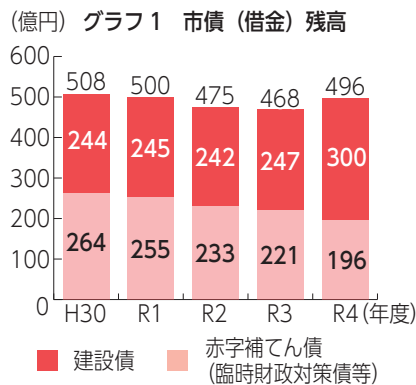
①福祉の充実	179,100円	⑤市債（借金）の返済	18,400円
②環境・保健衛生の向上	51,700円	⑥消防・救急業務	10,000円
③教育の推進	42,900円	⑦農林・商工業の振興	9,300円
④道路・公園等の整備	23,800円	⑧その他	60,700円

表1 会計別決算額 (億円)

会計	一般会計	特別会計			
		財産区	国民健康保険事業	後期高齢者医療事業	介護保険事業
歳入	1,154.9	49.9	281.1	49.4	214.5
歳出	1,126.8	0.8	269.5	47.4	210.0
繰越	18.3				
差引	9.8	49.1	11.6	2.0	4.5

差引＝歳入－歳出－繰越（繰越＝翌年度に繰り越す財源）

主に税金を使って福祉・教育等の市民サービスを行うのが「一般会計」、保険料等の特定の収入で特定の事業を行うのが「特別会計」です。



市債残高・基金残高の推移

グラフ1中の「建設債」は、おにクルの建設等への活用により増加した一方で、「赤字補てん債」は発行抑制に努めたことから減少しています。

グラフ2中の「財政調整基金」とは、災害や急激な財源不足等に備えるための市の貯金にあたるものです。昨年度は、物価高騰対策等の財源として活用した一方で、適切に積み立てた結果、残高は79億円に増加しました。また、「特定目的基金」はおにクルの建設やごみ処理施設の長寿命化等の財源として活用し、残高は155億円となりました。

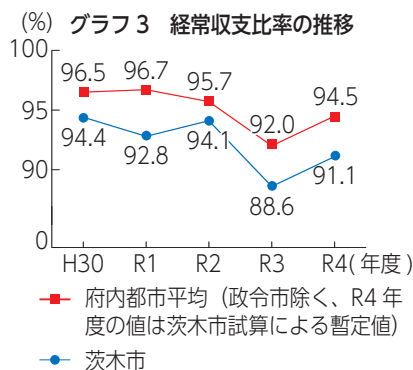


まちの持続的発展のためには「財政の健全性」の確保が重要になるのね。

経常収支比率・ビルド&スクラップ

グラフ3は数値が低いほど、財政構造に弾力性（市民ニーズへの対応力）があることを示す「経常収支比率」の推移を示しています。昨年度は、物価高騰により光熱費や燃料費等が増加したことから、数値が2.5ポイント上昇しました。

今後も財政構造の弾力性を維持するために、引き続き「ビルド&スクラップ」の実践等、財政の健全化の取組を進めていきます。



ビルド&スクラップとは「ビルド＝市民福祉の向上を図る新たな事業を実施」するために、「スクラップ＝既存事業の見直し」をしながら進めるという前向きなスローガンだよ。これにより適切な比率をキープしつつ、継続して市民サービスの充実に取り組んでいるんだね。



今後も「財政の健全性」の確保のもと、「次なる茨木」の実現に向けた取組を着実に推進します。

各施設の休館日等は市HP等でご確認ください。

問問合先、✉メールアドレス、HP ホームページ、保一時保育あり（原則有料、詳細は事前にお問い合わせを）